

評価項目5 (教育目標等を達成するために必要な項目・指標を設定する。)

重点目標		一人一人の児童の特性や個性・能力に応じた指導体制・内容、授業方法を取り、適切な学習環境を設定し、学力に特化した学校を創る。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	全ての教育活動において、その成果を確実に保護者や地域に伝え、信頼を得る。	6年についても受験する児童が多いが、公立中に進む児童への配慮をして欲しい。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に児童が受験を話題にすることが多い。受験のストレスを感じることで受験の有無に関わらずある。校内では、極力受験の話題をしないなどを年度当初に児童に指導する。必要に応じて保護者にも伝えていく。 ・アンケートでは、書いてある内容そのものだけでなく、書いた児童の悩んでいることをくみ取るように配慮する。 ・中学校で何を学ぶかに視点をあてた進路指導をしていく。
	成果を生み出す校内システムを確立させ実践していく。学校は、落ち着いた生活、安定した学力を身に付けさせる。	答えは見える形で出す。 担任の答え→児童。 校長の答え→担任。	B	
②	環境教育を通して、地域、家庭と連携したエコの精神を全校児童が意識した生活を行う。	新校舎という点から、いろいろな施設の充実により有効活用が出来ている。しかしながら、児童が環境への意識がどの程度向上しているかはわからない。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・エコ精神の芽を育てるため、継続した環境教育を行う。 ・再生紙を再利用できる場面では、利用し、「もったいない」という意識を育む。 ・ペットボトルが日常化しているので、なるべくゴミを減らすよう意識したい。 ・エコリンクや環境教育は、エコスクールと言いながら一部の教員しか取り組んでいない。学校で傾倒的に全体計画を作成して全学年で全教員が取り組んでいく。
	エコスクールとしての取組を整理し、各学年で体験的な環境教育に取り組む。	環境監査を機に明らかに、詳細が見えてきている。	B	
	エコリンクなどの実施や報告を通して、教職員のエコ感覚を磨き、節電や環境教育に対する意識をさらに高める。	学校が事業所としての意識をもつことが必要。教職員のごみ処理やペットボトル削減など社会で行っていることへの取り組むべきではないか。	B	
③	地域の教育資源を生かし、地域人材を活用した取組や本校独自の研究・研修を通して深い学びを体得させる。	地域COをどのように活用していくか、学校全体での共通認識が必要ではないか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科の校内研究で、ホワイトボードを使った学習やペア学習が効果をあげている。今後も、各学年で取り入れ、主体的・協働的に学べるようにしていく。 ・アクティブラーニングは、効果的な場面でより有効的に行われるように、積極的に学年で工夫、確認する。 ・実際にGTの活用では、教職員もGTの授業を体験する。 ・保護者向けにもプログラミング教室を定期的実施して理解を得る。 ・これから必要になる学習を事前に取り入れ、児童の実態に合わせて、対応していくことが大切だと思う。
	算数科の校内研究を通して、自主的、対話的深い学びを通して、児童のさらなる学力向上を図るとともに内面的な成長を促す。	アクティブラーニングの取入れ。	B	
	プログラミング教育を全学年を通して、系統的なICTリテラシー及び論理的思考力を身に付ける。	3年後必修になる。GTの活用。保護者へも先進的な取組について広報していくことも大切。保護者も子供のことを良い意味で監視しなければいけない。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成